

各 位

会 社 名 株式会社きんえい
 代 表 者 名 取締役社長 丸山 隆司
 (コード番号 9636 東証第 2 部)
 問 合 せ 先 取締役経理部長 好井 裕一
 (TEL. 06-6632-4553)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成 28 年 3 月 14 日に公表いたしました平成 29 年 1 月期第 2 四半期累計期間 (平成 28 年 2 月 1 日～平成 28 年 7 月 31 日) の個別業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 29 年 1 月期第 2 四半期累計期間個別業績予想数値の修正 (平成 28 年 2 月 1 日～平成 28 年 7 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	1,620	70	70	40	14.34
今回修正予想 (B)	1,701	109	109	73	26.17
増 減 額 (B-A)	81	39	39	33	
増 減 率 (%)	5.0	55.7	55.7	82.5	
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 28 年 1 月期第 2 四半期)	1,643	96	99	58	21.07

2. 修正の理由

映画興行事業は、当期はゴールデンウィークから夏休みまでの従来入館者が少ない期間においても、「植物図鑑」等の上映作品に恵まれたことに加えて、シネマ会員制度の会員数も 27 万人を超え、メールマガジンやブログ等によるシネマ会員への情報発信や事前にクレジットカード決済の必要がない座席予約システムの認知により、特に 10 代、20 代の入館者の増加が顕著であったため、売上高は当初の予想を上回る見込みとなりました。不動産事業では、テナント誘致活動を進めるとともに、美装工事等を計画的に進め快適で安全なビルづくりを逐次進めた結果、概ね当初の予想どおりの入居率を維持できたため、会社全体の売上高は前回発表予想を上回る見込みであります。一方、売上原価は、映画興行収入の増に伴いフィルム料は相応に増加しましたが、諸経費は部門別業績管理の徹底によりほぼ想定どおりに推移しました。その結果、各利益ともに、前回発表予想を上回る見込みとなりました。

なお、通期の業績予想につきましては、現在精査中であり、修正が必要となった時点で速やかに開示いたします。

(注) 上記の予想は現時点で入手可能な情報に基づいたものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なる結果になる可能性があります。

また、第 2 四半期累計期間の決算短信は、平成 28 年 9 月 6 日 (火) 発表予定であります。

以 上